**史跡散策会**

前回2018年（H30）11月17日に実施以降新型コロナの影響で開催を控えていましたが、コロナ禍も漸く落ち着きをみせてきたので４年半ぶりに再開しました。

第６回史跡散策会（2023年（R5）4月15日）

【麻賀多神社本社から成田山へ】

　佐倉・成田近辺には麻賀多神社が１８社ありますが、今回はその麻賀多神社の総元締めとも言える本社と奥宮を探訪しながら成田へ抜けて成田山新勝寺に参拝の予定でした。しかしながら暫時好天の日々が続く中で、４月15日だけに傘マークがつき当日になっても予報は外れず小雨の中の決行となりました。

参加者：１０名(反省会参加者は１２名)

当日の行程：　宗吾参道駅 ─（徒歩）→ 宗吾駅跡 ─（徒歩） → 宗吾霊堂・甚兵衛そば ─（ﾊﾞｽ） → 下方宿 ─（徒歩）→ 一の鳥居 ─（徒歩）→ 旧東勝寺跡 ─（徒歩）→ 超林寺─（徒歩）→ 麻賀多神社本社 ─（徒歩）→ 宗吾旧宅 ─（徒歩）→ 麻賀多神社奥宮・伊都許利神社 ─ はなのき台　─（ﾊﾞｽ）→ JR成田駅 ─（徒歩）→ 【反省会】饅福亭

宗吾参道駅に集合した参加者10名は雨支度を整え小雨の中を出立、風がないのが救いでした。途中、成宗電気軌道（成田山と宗吾霊堂を結んでいた路面電車で太平洋戦争中に軍の要請で廃線となった）の宗吾駅跡を確認しながら20分ほどで「甚兵衛そば」屋へ。開店の11時まで時間があるので先に宗吾霊堂（鳴鐘山東勝寺）を参詣し、その後「甚兵衛そば」屋で名代の甚兵衛そばを食べる。甚兵衛渡しに因んだ渡し舟の容器に盛られた“ざる蕎麦”だ。宗吾霊堂前から成田市のコミュニティバスに乗り下方宿へ、ここから小糠雨の中を本格的に散策開始。

雨の降り具合によっては予定を変更し立ち寄り先も大幅に割愛して雨に濡れない方法（屋内施設へ逃避など）を講ずることも選択肢として考えていたが、幸か不幸か小糠雨程度のため予定通りとした。麻賀多神社本社の一の鳥居、宗吾霊堂が現在地に移る前の東勝寺跡等を経て４５分ほどで麻賀多神社本社へ。ここが麻賀多神社１８社の総元締めの本社だ。一の鳥居が建てられたのは奈良時代だがその頃はこの辺りまで印旛沼が広がっており、鳥居は水辺の中に建てられていたようだ。本社はやや高台にあり超林寺から急坂を登る。街中の麻賀多神社と違い交通の便も悪いため寂れて訪れる人もほとんどいなかったが、最近整備されたようで雨にも関わらず数人の参拝者がいた（車での訪問か？）。

　本社を訪れたからには奥宮へも行かねばならない。奥宮は成田ニュータウンの西のはずれに位置し、本社の裏手から見ると江川が流れる低地を挟んだ向かいの高台の木々の中にある。本社をあとに江川へ出る途中宗吾旧宅を訪ねる。予め見学可能か確認の電話を入れておいたので第１７代当主の木内克子さんが出迎えてくれて懇切丁寧な説明をしてくれた。旧宅内で説明を聞いている最中に一時雨が本降りとなり、当初３０分位の予定のつもりが一時間以上滞在することとなったが逆にほどよい雨宿りとなって好都合であった。お身内に慶応の学生がおられるとかで三田会に親近感をもたれているようでもあった。

雨が小降りになったので奥宮目指して散策再開。江川を渡って最後の難所の急坂を登って奥宮に到着。奥宮を参拝後、ニュータウンの「はなのき台」バス停へ出る。ここまで来ればバス便は頻繁にありJR成田駅までもすぐ。時間があれば成田山の境内を散策する予定であったが、雨降りのため割愛して反省会場の饅福亭へ直行。

反省会のみ参加の２名は早々と会場入りしており１６時前に饅福亭で合流。今回の散策は距離は短いがアップダウンが多く、雨中の散策で不安もあったが途中落伍者もなく１０人全員元気に反省会に臨むことができた。饅福亭での反省会では、コース料理と〆のミニ鰻重に舌鼓を打った。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（S45工）萩原隆一